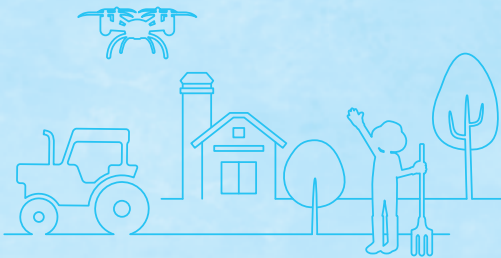


担い手通信

vol. 1
2022



農家と交流の場創出

就活生らに魅力発信

若者と農家が交流する場をつくり、新規就農者の掘り起こしにつなげることを目的に、農水省と民間企業7社による官民コンソーシアム(共同事業体)が始動しました。就職活動中の学生を含む若者に、農家との意見交換や農作業体験などへの参加を呼び掛け、農業のやりがいや就農までのノウハウを共有。農業を自身の職業として選ぶ若者の育成を目指します。

就農者確保へ官民連携

産直通販サイト「食べチョク」を運営するビビッドガーデン、旅をしながら地域で働くことを若者に提案する企業のおてつたび、就職活動サイトを運営するマイナビなど7社と同省が連携します。

「魅力的な農業者の姿に触れて、人生の選択肢に農業を入れてほしい」(同省就農・女性課)という構想に基づき、「農業の魅力発信コンソーシアム」を発足させました。

若者に農業の魅力を伝えることができる農家を各社が選定します。①収益②経営方法③ライフスタイル——のいずれかで特徴的な経営を実践する農家をリスト化。交流イベントやメディアを通じて、農業に携わる姿や生の声を発信します。既に30人以上を確保したといえます。

農家と交流する若者は、40代以下を中心とし、特に20代の確保に重点を置きます。コンソーシアムに参加する各企業が運営する就職活動中の学生や就農・農業体験、移住希望者を対象にしたウェブサイトなどで各種イベントの情報を提供し、参加者を募ります。

活動の第1弾として、リストに入っている農家4人によるトークイベントを3月上旬に開催しました。約70人

新規就農者の創出を目指す 官民コンソーシアムの仕組み

■農業や若者に関係する官民組織が参加

農水省

おてつたび、第一プログレス、ビビッドガーデン、フルハウス、マイナビ、マイファーム、YUIME

■農業の魅力 を 発信する農家を リスト化

各社の事業を利用する農家から、特徴的な経営を実践する農家を選ぶ

■農業に興味の ある若者を 掘り起こし

各社が運営する就職活動や就農関連のサイトで、交流情報を発信

■リストアップした農家と若者の 交流の場を設定

トークイベントやメディアを通じ、農業のやりがいや就農までのノウハウを知ってもらう

就農希望者を掘り起こし、将来の担い手に

(コンソーシアムへの取材を基に作成)

がオンラインで参加しました。

滋賀県近江八幡市のトマト農家、関澤征史郎さんは研修先の農園で研さんを積んだ後、第三者として継承した経緯を紹介しました。「農業はもうかる産業だ。いろいろな関わり方があって、農家出身でなくても経営者になれる」と強調。参加者からは「農業の可能性を強く感じた」などの感想が寄せられました。

(日本農業新聞 2022年3月22日)